

# 令和元年度 長崎県立長崎工業高等学校 学校評価 (評価集計)

令和元年9月(中間)、令和2年2月(年間)実施 対象者:本校職員97名

評価は、十分達成4点、ほぼ達成3点、やや不十分2点、不十分1点の4段階で行いその平均を評価点としている。

校訓		「技術の真髄をつかめ」－APPREHENDITE COR ARTIS－
教育方針		広い視野と旺盛な創造力を持ち、豊かな人間愛に満ちた、心身ともにたくましい工業技術人の育成を図る。
教育目標	本校の教育方針に基づき、職員、生徒は力を合わせ良い伝統のうえに新しい校風の樹立を期して、次の諸点の徹底を図る。 (1) 幅広い知識と教養を身につけ、真理を探究する態度を養う。 (2) 高度な技術と技能を身につけ、自信に満ちた工業技術者を育てる。 (3) 豊かな情操と道徳心を培い、思いやりに満ちた人間性を養う。 (4) 規範意識を身につけさせるとともに勤労を重んずる態度を養う。 (5) スポーツ精神を高揚し、健やかな身体を養う。 (6) 郷土を愛し、伝統と文化を重んじる態度を養う。 (7) 国際社会の発展に寄与する人材を育てる。	
本年度の重点目標	「タフネス長工～新たな挑戦～」 タフな体づくり タフな頭づくり タフな心づくり タフな技づくり (1) 健康な心身をつくり維持する ○健康に関する意識を高め、心身を鍛える。 ○基本的な生活習慣、食習慣の確立を図る。 ○全員部活動制を実施し、部活動の強化を図る。 (2) 進路実現のための学力を向上させる ○「授業改善」に取り組み、魅力ある授業を展開。生徒の能力を最大限に引き出し伸ばす。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実践(新学習指導要領への移行を図る。) ○学科の特色を活かした資格取得の推進。 (3) 困難や逆境に負けないたくましい心、正しい判断ができる心を育む ○レジリエンス(心の回復力)を養い、竹のような弾力性、柔軟性を持つ心を育む。併せて、相手に対する思いやりやおもてなしの心を育む。 ○心通う挨拶の励行(相手の目を見て、爽やかに、大きな声で、会釈して) ○規範意識・技術者倫理の醸成を図る。 (4) 実習や課題研究、部活動等を通して「技」を磨く ○ものづくり力等を強化。(理解する・反復する・できるようになる・身に付く・応用する) ○技能訓練、安全教育、5S・KY活動の実践。 ○技術・技能の伝承(教師から生徒へ・熟練教師から若手教師へ)。	

## 【学校経営における目標と具体的な項目】

評価項目	目標	具体的な項目	令和元年度		平成30年度	
			中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
学校経営	学校の実態に即した目標が設定され、教師間の共通理解のもと、教育目標の具現化を図る。	三つのキーワード(ものづくり・資格取得・多様な進路)のもと「ひとつづくり」を目指す。	3.3	3.3	3.2	3.3
		各学年・各分掌の経営方針に学校の教育目標を具現化する方策を盛り込んで実践する。	3.2	3.2	3.1	3.2
		目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その後の教育活動に生かす。	3.1	3.0	2.9	3.0
	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	学校の中期的なビジョンを検討し、教育活動を明確にする。	3.1	3.0	3.0	3.0
		各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	3.1	3.0	3.0	3.2
		教育目標や重点目標等を生徒・保護者・地域等に説明・広報する機会を設ける。	3.2	3.1	3.1	3.1

## 【教育活動全般における目標と具体的な項目】

評価項目	目標	具体的な項目	令和元年度		平成30年度	
			中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の編成	学科や教科の教育目標の実現に向けて、創意を生かした特色ある教育課程を編成する。	3.2	3.2	3.2	3.3
		教育課程の実施に当たって、教育目標の達成状況を定期的に点検する。	2.9	3.0	2.9	3.1
教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	各教科・科目の学習方法を事前に生徒に説明する。	3.1	3.2	3.1	3.1
		基礎・基本の内容を重点化した指導を行い、基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図る。	3.2	3.3	3.2	3.2
		生徒の実態に応じて指導方法や指導形態を変えるなど、授業の創意・工夫に努める。	3.3	3.3	3.2	3.2
	生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う。	生徒の実態に応じて教材を精選し、また教育機器を活用するなど指導の工夫をする。	3.3	3.2	3.1	3.2
		効果的な授業を実践するため、使用する教材や教具についての研究・研修をおこなう。	3.1	3.1	3.1	3.1
	教職員の共通理解のもと適切な評価を行う。	担当教師間で評価基準を話し合い、共通理解のもとで評価をおこなう。	3.0	3.1	3.0	3.1
定期考査の得点以外の観点も評価に加味し、生徒の多面的な能力を評価する。		3.2	3.3	3.2	3.3	
評価はその後の授業に還元し、評価と指導の一体化を図る。		3.1	3.1	3.1	3.2	

## 【学 年】

目標	具体的な項目	令和元年度		平成30年度	
		中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
第1学年 長崎工業生としての自覚を持ち、基本的な生活習慣を身につけ、「実践力」を養う。	時間厳守、挨拶の励行、掃除の徹底を中心に、規律ある生活習慣を確立する。	3.0	3.1	2.7	3.0
	授業や定期考査、資格取得に真剣に取り組み、毎日1時間以上の家庭学習を定着する。	2.7	2.6	2.2	2.5
	仲間と協力しながら部活動や学校行事に積極的に参加し、社会貢献意欲を育成する。	3.1	3.1	2.9	3.1
第2学年 中堅学年としての自覚を持ち、規律ある生活態度を確立し、進路目標の具体化に努める。	自主的な学習活動を確立させ、1日2時間以上の家庭学習の定着を目指す。	2.0	2.0	2.5	2.8
	学校行事や部活動に積極的に取り組み、タフで他人を思いやる心を育てる。	2.9	2.9	2.9	2.9
	インターンシップ等を通じ、職業人としての心構えを学ぶ。	2.8	3.2	2.8	3.5
	修学旅行などを通じ、仲間との協力や集団行動の大切さを学び、豊かな人間関係を築く。	2.9	3.2	3.0	3.4
	観察、面談、情報交換を丁寧に行い、生徒の変化を見逃さないように心掛ける。	3.0	3.1		
第3学年 伝統ある長崎工業高校の最高学年としての誇りと自覚のもとに規律ある生活態度の確立に努め、自己の進路実現を図る。	自らの進路の適切な選択とその100%の実現を図る。	3.4	3.5	3.3	3.6
	規律ある生活態度を確立させ、社会人としての基本的な生活習慣を育成する。	3.1	2.9	3.0	3.4
	最高学年としてのリーダーシップを発揮し、学校を活性化させるよう努める。	3.3	3.4	3.2	3.4

【校務分掌】

目 標	具体的な項目	令和元年度		平成30年度	
		中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
教務 日常業務の効率のかつ円滑な運営に努め、学力向上のため学習環境を整え、学校の活性化を図る。	各学年・分掌・教科・学科及び定時制との連携を密にする。	3.2	3.1	3.1	3.2
	諸行事等の精選を行い、授業時間の確保に努める。	3.2	3.2	2.9	2.9
	保護者との連携を強化し、各種活動を推進する。	3.2	3.4	3.0	3.3
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
生徒指導（生徒指導） 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目指し、工業人としての基礎・基本の確かな習得と自ら学ぶ意欲・態度を育てる。	服装、容儀などについて生徒指導を中心に全職員で共通理解し、全職員で指導を行う。	3.3	3.4	3.2	3.4
	交通指導・校外巡視の徹底により、安全意識を高め生命尊重の精神を養う。	3.2	3.1	3.2	3.3
	問題行動の未然防止に努め、特別指導件数を半減する。	3.4	3.4	2.9	2.9
	いじめの発生防止に努め、いじめ見逃しゼロを徹底する。	3.2	3.2	3.2	3.2
生徒指導（環境） 地球温暖化防止や5S運動を踏まえた美化活動や環境対策活動の意識や実践力を高め、快適な学校環境づくりや環境にやさしい人づくりに努める。	環境美化意識を育成するために、必要な情報を提供する。	3.2	3.3	3.3	3.3
	清掃活動・ゴミ分別活動を徹底し、校内環境美化を推進する。	3.2	3.3	3.2	3.1
	省エネ・省資源活動を生徒と教職員が丸となって取り組む。	3.1	3.2	3.0	2.8
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
生徒会 生徒会活動への参加を通じて、学校への帰属意識を高め、社会に貢献できる人物の育成を目指す。	生徒一人ひとりの生徒会活動への積極的参加と意識の高揚を図る。	3.1	3.0	3.2	3.3
	部活動を通して心身を鍛錬し、学校生活の充実を図る。	3.2	3.3	3.3	3.2
	あいさつ・容儀・乗車マナー等、生徒の規範意識向上を図るため「高校生さわやか運動」を推進する。	2.9	2.8	2.9	3.3
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
図書 読書を通して自己の感性を育み、自分の考えをきちんと表現できる生徒を育てるために図書の充実に努め、図書室の利用促進を図る。	図書室の利用者数を1日40人、貸出冊数200冊を目指す。	2.7	3.5	3.3	3.3
	月ごとにディスプレイを工夫し、安らぎと落ち着きのある読書環境づくりに取り組む。	3.8	3.8		
	月ごとに図書便りを作成したりスタンプラリー等の企画を実施したりして、図書館の広報活動に努める。	3.7	3.8		
	年間8回の「朝の読書だより」を作成し、「朝の読書」の充実を図る。	3.8	3.5	3.3	3.1
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
進路指導 生徒の自己実現に向け組織的・積極的な援助を行う。	年間を通じた進路指導の充実を図り、望ましい職業観、勤労観の育成を図る。	3.6	3.6	3.4	3.4
	自己の適性を把握すると共に、将来を見据えた主体的選択力、自己教育力の育成を図る。	3.5	3.4	3.3	3.2
	進路先に応じた実力の養成を図り、生徒の進路実現満足度100%を目指す。	3.6	3.7	3.5	3.6
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
研修 職員及び生徒の研修活動の充実と推進を図る。また、広報・情報分野の内容充実に努める。	職員の研修機会の拡大を図るとともに、授業力向上研修を推進する。	3.2	3.3	3.2	3.2
	生徒への人権教育・平和教育及び国際理解教育を推進する。	3.4	3.3	3.4	3.2
	各学科・教科と連携し、生徒の資格取得・検定試験を支援する。	3.3	3.3	3.4	3.3
	学校説明会、オープンスクール、ホームページ等の広報活動を充実させ、本校の教育活動の周知・発信に努める。	3.5	3.4	3.6	3.2
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
保健（保健） 運動の生活化と健康の保持増進及び体力の向上を図る。	生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力の育成を図る。	3.0	3.3	3.5	3.1
	健康の保持増進のための実践力の育成を図る。	2.9	3.1	3.2	3.0
	体力の向上を図る。（新体力テストの各検査で全国平均を超える。）	2.7	3.0	3.1	3.1
保健（相談） 生徒理解に努め、生徒の自己実現を支援する。	生徒をよく観察し、生徒との温かい人間関係の確立に努める。	3.2	3.3	3.1	3.3
	奨学金について保護者・生徒に周知徹底し、担任との連携を図る。	3.3	3.3	3.3	3.3
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
事務部 教育環境の充実に努める。	生徒が安心して過ごせる安全で機能的な教育環境の充実に努め、省エネルギー・省資源活動を推進する。	3.3	3.3	3.3	3.7
	あいさつ・マナー・思いやりを基本に明るく丁寧で適切な対応を行い、学校内外の信頼を得る。	3.5	3.5	3.2	3.8
	県民・保護者等に説明できる効率的かつ適正な事務の執行に努める。	3.3	3.0	3.3	3.7

【専門学科】

目 標	具体的な項目	令和元年度		平成30年度	
		中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
機械科 機械に関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、産業界が求めるタフな人材を育成する。	授業やものづくりを通して安全意識・改善意識を高めつつ技能の向上を目指し、タフさと品性を兼ね備えた人材を育む。	3.3	3.4	3.1	3.1
	各種資格・検定試験に積極的に取り組み、合格率80%以上を目指す。	3.1	3.4	2.9	3.1
	進路指導を強化し、進路実現・進路満足度100%を目指す。	3.4	3.6	3.1	3.4
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
機械システム科 基本的な生活習慣を身につけ、ものづくりを通して、専門的知識・技能を習得して実践力ある技術者の育成を図る。	あいさつ・言葉遣いなど基本的な生活習慣を身につける。	3.1	3.1	2.9	3.2
	ものづくりを通して技術・技能の向上を目指す。	3.3	3.2	3.2	3.3
	(電子機械コース)メカトロニクス技術の基本的技術の習得と応用力の向上を図る。 (造船コース)造船に関する基礎的な知識の習得と応用力の向上を図る。	3.3	3.3	3.3	3.3
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
電気科 将来の自己実現に向け、有能で人間性豊かな電気技術者を育成する。	電気分野における基礎学力の向上と充実を図る。	3.1	3.3	3.1	3.6
	ものづくりを通して実践的な技術・技能の向上を目指す。	3.1	3.4	3.1	3.4
	電気工事士の全員合格とその他資格・検定の複数合格を目指す。	2.9	2.9	2.7	2.6
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
工業化学科 工業人としてふさわしい高い人間性を持つ実践的な化学技術者の育成を図る。	ものづくりを通して正しい技術者倫理を備えさせ、高い技術・技能を身に付けさせる。	3.0	3.1	3.1	3.3
	化学技術者に求められる資格(危険物、高圧ガス等)を取得させる。	2.9	2.7	3.1	3.0
	環境保全や省エネルギーの意識を高め、安全に配慮できる技術を身に付けさせる。	3.1	3.1	3.0	3.3
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
建築科 建築物の設計や工事現場の管理及び施工技術や技能に関する知識の習得を図る。	ものづくりを通して技術・技能の向上を目指す。	3.6	4.0	3.3	3.7
	2級建築施工管理技士試験(学科)の全員合格(100%)を目指す。	3.0	2.7	3.3	3.4
	実験・実習によって建築の知識を深め、設計や施工に必要な技術・態度を身に付ける。	3.6	3.3	3.3	3.7
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
インテリア科 インテリアに関する基礎的な知識と技術を習得させると共に、個々の持つ能力を伸ばし、自己実現を目指す助力を行う。	インテリア全般の基礎的な知識と技能を身につけさせる。	3.4	3.6	3.3	3.5
	資格取得や各種コンペ等の競技へ積極的に参加させ、各個人の能力や学習意欲を高める。	3.7	3.9	3.5	3.6
	生徒が自らを理解し、自立した生活ができるよう指導する。	3.1	3.3	3.2	3.5
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
電子工学科 進路の実現に向けて、学力の向上に努め、資格取得を通して専門性を深化させるとともに、環境問題や省エネルギーに配慮できる技術者の育成を図る。	実習やものづくりを通して技術・技能の向上を目指す。	3.4	3.4	3.2	3.3
	各種国家試験(無線技士・工事担任者等)・検定試験などの資格取得を図り、合格率80%以上を目指す。	3.3	3.7	3.1	3.3
	電子工学における基礎学力を確立し、専門性の向上に努め、環境問題に配慮できる、規範意識と勤労を重んずる技術者の育成を図る。	3.3	3.3	2.9	3.0
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価	中間評価	年間評価
情報技術科 ハードウェア・ソフトウェアの基礎知識と活用能力・応用力を身につけ、情報通信ネットワークやコンピュータ制御などの分野で幅広く活躍できるICT技術者を養成する。	ものづくりを通して技術・技能の向上を目指す。	3.7	3.6	3.5	3.7
	情報系の国家試験合格者25名、その他の国家試験・検定試験の全員合格を目指す。	3.6	2.9	3.1	3.7
	情報に関する知識・技術の習得を通して、志望する進路の実現を目指す。	3.6	3.6	3.4	3.8